

「第二期 唐津市子ども・子育て支援事業計画」における 量の見込み算出について

1 考え方の基本は、利用実績・利用意向 × 将来の児童人口

見込み量の算出にあたり国から提供されたワークシートで、ベースとなる大きな要素は二つあり、一つは保護者の「事業利用意向」、もう一つが市の将来の児童人口推計となります。児童人口推計については、第 10 回の子ども・子育て会議ですすでにお示ししています。

将来の児童人口に対し、ニーズ調査による事業利用意向・利用率を乗じていく（家庭類型ごとの算出値を積み上げていく）手法が、現計画策定時に国から手引きとして示されたものです。第二期も第一期の手引きを基本としつつ、その後追加された考え方を踏まえた「算出等の考え方（平成 31 年 4 月改訂版）」を参考に各市町村で適切に判断していくこととされています。

2 第一期と異なるのは、「利用実績」データが整っていること

第一期、国から配付されたワークシートによる積算は実情に対して高い数値が算出される傾向が強いことが多くの自治体により指摘されました。第二期の見込み量算定にあたっては、新制度下での実績データが整っていることから、ニーズ調査による「利用意向」とワークシート算出結果を中心に需要を見込む必要性は低くなり、実績データから実際の利用率を算出し、将来の児童人口の推計を乗じていく方法も重視すべきと考えます。

3 実態を重視しつつ潜在的ニーズを考慮

第二期の見込み量算定は、「ニーズ調査と国のワークシートによる算定」と、新制度後の利用実績から試算する「実態による見込み」を比較検討し、より実態に即した算定を行うこととします。

その際、ニーズ調査から把握する潜在的なニーズの存在についても考慮していくこととします。

4 見込み算定作業のイメージ

